

令和7年6月

水

意

月

あ お ぞ ら

鹿屋市青少年育成センター

第412号

鹿屋市共栄町20-1 TEL 31-1138
(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

地域にある「豊かな体験活動」が自己有用感や向学心、精神的回復力を高める

鹿屋市立鹿屋小学校 校長 上木 勝憲

小学校の頃に自然体験や社会体験など体験活動の機会に恵まれた子供は、様々な状況に左右されることなく、高校生の頃の自尊感情などが高くなる傾向が見られる。これは、文部科学省の「21世紀出生児縦断調査」で明らかにされたことです。

体験活動をしながら育った子供は、以下のような力が向上する傾向があります。

- ① 自尊感情… 自分に対して肯定的な感情
- ② 外向性… 自分を活発だと思ふ
- ③ 向学的な意識… 勉強・授業が楽しい
- ④ 精神的回復力… 新しいものを追求する性質、感情調整、肯定的な未来志向

具体的な体験活動に係る調査結果では、

- ・ 自然体験(キャンプや登山など)が多い子供は、自尊感情や外向性が高い傾向がある。
- ・ 社会体験(農業体験、ボランティアなど)が多い子供は向学的な意識が高い傾向がある。
- ・ 文化的体験(動植物園見学、音楽、演劇鑑賞など)が多い子供は、向学的な意識、自尊感情、外向性、精神的回復力、心の健康の全てが高くなる傾向の結果が得られました。

また、異年齢の子供や家族以外の大人など、多様な相手と遊ぶ機会が多いほど、自尊感情や外向性などに良い影響が見られることも分かりました。

文部科学省では、体験活動の教育的意義として下記のことを伝えています。

《体験活動の教育的意義》

- 体験活動は「豊かな人間性」や「自ら学び、自ら考える力」などの『生きる力』の基盤や、子供の成長の糧となる。
- 体験活動が思考や実践の出発点や基盤となる。
- 思考や知識を働かせ、実践して、「よりよい生活」を創り出していくために、体験が必要である。

鹿屋市内で生活する子供たちは、すばらしい地域行事や伝統芸能、異年齢活動、ボランティア活動等に触れることを通して、地域の自然、歴史、文化や様々な人々と触れ合いの中で、社会性を身に付けています。

異年齢集団の中で、笑ったり、喜んだり、驚いたりするなど感情が揺さぶられることで、豊かな人間性や主体性を築くことができるようになってきています。

本校の校区子ども会でも、様々な体験活動が実施されています。昨年10月12日(土)春日神社において、打馬子ども会育成会による十五夜行事が開催されました。育成会や地域の御協力によりつくられた立派な土俵の上で、赤ちゃんの土俵入りや小学生相撲等がありました。大相撲本場所に負けないぐらいの熱戦が相次ぎました。



お互いの力がぶつかり合う力相撲や土俵際まで勝負の行方が分からない接戦等見応えのある打馬場所でした。



後半では、鹿屋小職員と子供たち、校長と子供たちとの対戦もあり、会場から大きな声援をいただきました。担任の先生が土俵に上がると、先生と相撲をとってみたいという希望者も多く、会場の熱気は最高潮に達しました。私も10人程の

子供たちから強烈な押し相撲にあい、あえなく土俵を割りました。子供たちと共通の体験をして、より親しくなれたような気がしました。

また、昨年10月19日(土)は和田井堰公園において王子町子ども会育成会による十五夜行事が開催されました。風船リレーやビンゴゲーム、綱引き等がありました。大きな綱を握り、かけ声を揃え、一生懸命綱を引いていました。友達同士、保護者・地域の方々同士で、会話が弾み、会場中に笑顔があふれていました。

鹿屋市内の各学校区の教育活動や子供会や地域行事には、それぞれの活動の意義や目的があり、子供たちに大きな力を与えてくれています。学校だけでなく保護者や地域の皆様から、貴重な体験の場を提供してもらい、異年齢の子供や家族以外の大人の人と触れ合う機会が多いことは幸せな環境だと思えます。

予測のつきにくいこれからの時代を生き抜く子供たちのために、思考や実践の出発点や基盤となる豊かな体験活動をそれぞれの学校区の地域で、できるところから実践してほしいと思います。